南無阿弥陀仏は
私のいのち

えこお
NO. 437
平成26年
6月号
6

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派　西徳寺
TEL 03-3875-3351　FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiiro.jp/
発行人　岸本 秀一
印　刷　日生印刷(株)　03-6863-3263

（撮影　国分 尚三 氏）

慶び

先日、友人の結婚式に出席した。披露宴には多くの方が出席され、大変盛大に行われた。

昔から、結婚や出産などの祝い事は慶事とも呼ばれてきた。「慶」とはよろこぶということだが、親鸞聖人は『尊号真像銘文』の最後に、「うべきことをえてのちに、よろこぶ」と述べておられる。現在一般的には、めでたいと祝うという意味で用いられている。当事者が喜び、周りの方々にもよろこばれる、祝ってもらえる慶びという意味があるとも教えていただいたことがある。

それこそ結婚式とは、結婚する当人の喜びをえてのちに、有縁の方々が、「よかった」「めでたい」と心から慶んでくださる、祝ってくださる、そういう儀式でもあるのだなと思わされた。

親鸞聖人は『教行信証』の中で、『正信偈』に出てくる七人の高僧の、教えやおおせに出遇われた感動を、「慶ばしいかな」という言葉で表されている。それは単に親鸞聖人個人の喜びだけではなく、「慶」という字が使われているように、七高僧に代表されるような、私に先立ってお念仏の教えに帰依していかれた人々が、もっと言えば、念仏という、人類の歴史が「遇い難き仏法によくぞ出遇ってくれた」と、慶ばれているようだ。

仏法を聴聞する者における慶事とは、私たちに先立って念仏の教えを聞き開き、人であることを尽くされた方々の念仏を勧める声と、「よくぞ出遇ってくれた」という慶びの声に出遇うことだと思う。

（蓮井　邦宗　記）

「出かけていく聞法会 30周年記念大会」のお知らせ

城東ブロック

中央ブロック

いよいよ今月14日（土）午後２時から、浅草ビューホテルにおきまして「出かけていく聞法会３０周年記念大会」が開催されます。参加予定者は３００名を超える見込みです。

当日は、

午後１時　　受付開始
午後１時半　開場
午後２時　　大会開始

のご案内とさせていただきます。

席次は各ブロックごとを基本に指定してあります。服装は平服で結構ですが、お念珠はご持参ください。同朋章・門徒式章等（輪袈裟）はご自由にしてください。

尚、まだ会費を納めておられない方は振り込み（現金書留）、もしくは現金で寺務所までお持ちいただきますようお願い致します。

参加申込みのキャンセルにつきましては、**6月12日（木）**をもって期限とさせていただきます。ご了承ください。

（主任 木村 記）

城西ブロック

鎌倉聞法会

城南ブロック

鎌倉聞法会

城北ブロック

5ブロック旅行

正信偈の話㉞

松井憲一

惑染凡夫信心発　証知生死即涅槃　必至無量光明土　諸有衆生皆普化

（惑染の凡夫、信心発すれば、生死即涅槃なりと証知せしむ。
必ず無量光明土に至れば、諸有の衆生、皆普く化すといえり。）

「惑染」は、煩悩に染まってできあがっている、この身のわたしのことです。叩けば、国もわたしも、ホコリのでる歴史をもっていますから、この身のある限り、どれほど洗濯しても、清浄になることはありません。

「凡夫」は、日常につかう言葉ですから、わかっているように思いますが、浄土の三部経では、『観無量寿経』にのみある教えです。お釈迦様が、韋提希夫人に、「汝は是凡夫なり。心想羸劣（心が弱く劣る）にして、未だ天眼（自分の迷いを知る目）を得ざれば、遠く（仏の世界）観ること能わず」と呼びかけて、自分の姿に目覚めよと教えられた言葉です。そう教えられてはじめて気づく惑染の凡夫に、その通りですと目覚める心は、わたしからは発しようもありません。だから、氷から火が出るような出来事として信心がおこるのは、ひとえに如来のおんもよおし、弥陀の回向によるのです。

「生死」は、生と死という離れてないものを、二つに分けて固定化して考え、それに「生」は○・「死」は×と、善し悪しを付けて迷いを深め苦しむ世界です。それに対して、その迷いが消える安穏の世界が「涅槃」ですから、「生死」と「涅槃」を「即（おなじ）」とするのは、頭で理解することはできません。にもかかわらず、「生死即涅槃なり」と「証知」するといわれるのは、阿弥陀仏の願いが「南無阿弥陀仏」となってわれらの口からあらわれでるからです。親鸞聖人は、「無碍光仏（阿弥陀仏）の不可思議の誓願、広大智慧の名号を信楽すれば、煩悩を具足しながら、無上大涅槃にいたるなり（『唯信鈔文意』）といわれます。つまり、わたしを呼び覚ます広大智慧の南無阿弥陀仏に目覚めるならば、灰になってもぬめりが残るような煩悩の身のままであっても、涅槃の道に立たしめられるといわれます。

　こうして、煩悩に汚染されきった救いに無縁の凡夫が、阿弥陀仏の願いによって、涅槃への道に立つことを「必ず無量光明土（浄土）に至れば」といわれます。「無量光明土」とは、『大無量寿経』の異訳の『無量清浄平等覚経』の言葉で、「速疾に超えて、便ち安楽国の世界に到るべし。無量光明土に至りて、無数の仏を供養すと。（『教行信証』「真仏土巻」）」とあります。

それは、無限に光り輝やく国土として、闇のわたしを照らす智慧の世界であると共に、無数の仏を見いだし、供養していく世界であるといわれます。惑染の凡夫という、深い悲しみ苦しみを通してお念仏に遇うと、見えなかった世界が見えてくる。それは「わたし以外は、みな仏」とすべての人を、尊んでいく光景であります。

　こうして、「必ず無量光明土に至れば」、「諸有の衆生、皆普く化すといえり」といわれます。無量光明土に至れば、あらゆる迷いの苦悩の衆生を、みな普く平等に教化する歩みを賜るといわれます。お念仏は、人助けができると思いあがる懺悔から、助けられる身への転換でありますから、教化する身になるとは思えません。しかし、わたしたちが、お念仏の御縁に遇えたのは、念仏し聞法する人々の後ろ姿に、亡き人となられても教えられ、育てられてきたからであります。そのことに気づけば、あらゆる人に、仏を求めるすがたを見いだして、共に仏道・涅槃に向かう歩みを始める、それが「諸有の衆生、皆普く化すといえり」といわれることの意味であると頷けます。

山門の言葉

摂取（せっしゅ）の心光（しんこう）常に照護（しょうご）したもう

『正信偈』

一切衆生を摂めとって捨てないという阿弥陀仏の本願の光明は、いかなる時も私のいのちを護って下さっているはたらきであると、親鸞聖人は教えてくださいます。

私たちの日常は、つねに自分の都合を優先して暮らしています。家庭であろうと職場であろうと、可能な限り自己主張を繰り返していきます。しかし、それを当然のこととしていく生活に満足は得られず、むしろ人間関係が険悪になることも少なくありません。

"かりゆし58"というロックバンドに『アンマー』という曲があります。「アンマー」とは沖縄の方言で「母親」を意味しますが、この曲は、我が子を愛する母親の心が綴られているのです。

前半の歌詞に「アンマーよ　あなたは私の全てを許し　全てを信じ　全てを包み込んで　惜しみもせずに　何もかもを私の上に注ぎ続けてきたのに　アンマーよ　私はそれに気づかずに　思いのままに過ごしてきたのでした」とあります。自分本位の在り方を疑わず、気ままな人生を続けてこられたのは、我が子のすべてを引き受けて、何があっても信じ続けてくれた母親の存在があったからです。その自分が子供を授かったとき、はじめて親の心に気づかされた姿が唄われています。

照護とは、厚顔無恥な私を照らし出し、自分勝手な生き方しかできない私と一つになる如来のはたらきなのです。それは自分の力を頼りに生きている私を支え続けている、いのちの世界に目を覚ませという呼びかけでもあるのです。

（木村　専正　記）

日　誌

4月16日	婦人会総会（参加者45名）
4月19日	混声合唱団「エコー」練習
4月22日	仏教青年会総会
4月24日	『唯信鈔』に聞く（第5回） 講師　宗 正元師
4月26日	同行会「正信偈の教え」に聞く 法話　蓮井 邦宗
4月27日・28日	宗祖忌
5月7日・8日	中興忌
5月9日	出かけていく聞法会 30周年記念大会実行委員会
5月10日	混声合唱団「エコー」練習 同行会「正信偈の教え」に聞く 法話　仲井 真裕
5月13日	総代会

平成26年度　婦人会総会

去る4月16日、西徳寺本堂に於いて平成26年度婦人会総会が、会員45名の参加の下開催されました。

岸本住職からは「人が死んだらどこへ行くのか」という根源的疑問や不安に向き合い、初めて「今を生きる」ことが出来るとのご挨拶を頂きました。太田愛子会長からは「これからも西徳寺を心の依り処にしていきましょう」とのご挨拶を頂き、引き続き大谷最高顧問からは「生活を通しての聴聞が大切」とのお話を頂戴しました。

議事は吉川昌子議長の下、事業報告・会計報告・監査報告・事業計画案・予算案が審議され皆様から承認されました。最後に岸本坊守から「出かけていく聞法会30周年記念大会」へのご協力の御礼と、「婦人会に集えてよかった」といえるような会にしていきたいと抱負を述べて頂きました。

総会後の懇親会ではビンゴゲームなどを楽しみ、賑やかなひとときを過ごしお開きとなりました。

（山崎 哲 記）

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせて頂きます。

横須賀市	玉木 昭子 様
江戸川区	形屋 顕弘 様
板橋区	江辺 康光 様

掲示板 平成26年6月

7日(土)	午後3時半	**混声合唱団「エコー」練習**
8日(日)	午後2時	**城東ブロック会総会・聞法会**（人形町・香港美食園）
11日(水)	午後2時	**出かけていく聞法会30周年記念大会実行委員会**
14日(土)	午後2時	**出かけていく聞法会30周年記念大会**（浅草ビューホテル）
18日(水)	午後1時	**婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く**
21日(土)	午後1時半	**定例聞法会**
22日(日)	午後3時	**評議員会総会**
24日(火)	午後1時半	**『唯信鈔』に聞く（第7回）** 講師 宗 正元師
28日(土)	午後6時	**同行会「現代の聖典」に聞く** 法話 大谷 義博
29日(日)	午後2時	**城北ブロック会総会・聞法会**（川口リリア）

読者の声

前略　いつもご無沙汰してすみません。兄一雄も八十五歳近くなりまして、色々な面で故障も多くなり、姉のところに世話になって居ります。弟が白内障の手術をしまして、私も多忙となり、お参りに出かけられなくなりました。

お墓も古くなりまして、一寸心配しておりますが、そのような訳で二十九日にはお参り出来ません。どうぞよろしくお願いします。管理料も忘れずに同封しました。

時節柄、御身体に気をつけてお過ごし下さいませ。

（上越市　横山 淑子）

仏教青年会総会

4月22日に仏教青年会総会が行われました。前年度の活動や会計について報告し、今年度の行事予定について話し合いました。

今年も「歎異抄（たんにしょう）」の講義を宗正元（そうしょうげん）先生よりいただく他に、バーベキュー大会やレクレーションを予定しております。詳細は「えこお」にて順次お知らせいたしますので、初めての方もぜひ一度お越しください。

編集後記

6月は別名で水無月とも呼ばれます。水無月には諸説ありますが、田植えが終わり田んぼに水を張る「水張月（みずはりづき）」や、田植えという大仕事を仕終えた「皆仕月（みなしつき）」などという説があり、梅雨時である新暦6月の異称として用いられるようになりました。

人間が生きていく上で欠くことのできないものが水ですが、多くの経典には仏様の功徳が水のはたらきであらわされています。

（主任 木村 記）

西徳寺ホームページアドレス：
HP http://saitokuji.tobiiro.jp/
ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。（メールでも結構です）
saitokuji@ce.wakwak.com